

## 映画「アレクセイと泉」を見て

オリブワークス主催の上映会で「アレクセイと泉」を見る機会を得ました。市民ネットが生まれるきっかけとなった、「ナージャの村」の続編とでもいうべき映画です。この映画は、本橋成一監督による美しい映像と坂本龍一による音楽が響きあう、「いのちの水」を主題としたドキュメンタリーでした。舞台は、ベラルーシ共和国の小さな農村ブジシチェ村。17年前のチェルノブイリ事故を境に、全てが放射能によって汚染されてしまいました。しかし、村の中心には、奇跡のように汚染されていない「泉」があり、この泉を「百年の泉」と村人は言います。

村で、たった一人の若者アレクセイは、小児マヒの後遺症が残っています。事故後も村を離れることはありませんでした。草花や動物を愛する心優しい青年は、泉と同じように、村人の心よりどころでもあります。ジャガイモを植え、鶏を飼い、豚を飼い、馬で畑仕事や薪を取り、糸を紡いで布を織る。お祭り、収穫、そして水汲みの様子等が映し出されます。泉の木枠の修理に用いる木を切り出し、斧と鋸だけで仕上げてゆく。長年培った技と勘で、生き生き働く老人たち。この場面の映像と音楽は、ロシア文学そのもののようでした。



生命の源である「水」。いかなる環境の下でも、地に足をつけて暮らしている人々。長い時間をかけて撮った映像には、私達が忘れかけていた生活がありました。これが、まさに自給自足と呼ばれるものと思えました。自分達を生かしてくれる全て一切の物に感謝する信仰もあり、“本当の豊かさとは何か”を語りかけるものでした。フィルムのラストに映し出された放射線量の数字は、原発のある地元柏崎に住む私には、今もって忘れることの出来ない衝撃です。そして、チェルノブイリの悲劇を忘れず、繰り返してはならないと強く思いました。(A)

## 編集後記

本当に残念で、支持者の皆さんには申し訳ない思いで一杯です。北岡議員が、4年間積み重ねてきたことが、100%市民の安全と安心のためだった事に間違いはないし、それを多くの皆さんが信頼して下さっていたと今でも思っています。議員活動と選挙は別物なのかもしれません。あるいは、彼の活動を市民の皆様知らせていくという、私たちの努力が不足していたのかもしれない。この上は、新たに市議員になられた皆さんが、真に市民の安全、安心を守るという立場に立って活躍される事を望んでやみません。守るべき良心を横において、支持を受けた人々の利害のために行動するなどのことがないことを切望します。一部議員が東電からビール券をもらったのだ、選挙の支援を受けたとかいう話は残念でたまりません。新議会でのネット提出の意見書否決も不安材料です。誰のための議員なのか、原点に立ち返って活躍してほしいと思っています。私たちは市民の皆さんからご意見を頂き、今後の活動に生かしたいと思っています。宜しくお願い致します。(H)

## 地域の会メンバーとなって

昨年8月29日に発覚した原発のトラブル隠しを期に、地元住民(柏崎、刈羽、西山)から直接意見を聞き、原発の透明性を確保することとなりました。これは、自治体(行政)が原発を監視するのではなく、住民の目線で監視できると考えたからでしょうか。

ところが、昨年来から数回の準備会を経て5月12日発足を見たのですが、地域の会を重ねていくうちに疑問点も大きくなってきました。24人の委員の構成を見ると、はっきりと原発推進の委員もいて、反対派の発言にただ感情的になり、言葉のやりとりで終わってしまうのです。毎回それで会が終わってしまい、進展どころか、方向性も見えない気がしてなりません。委員ひとりひとりが一歩踏み込んだ考えを持ち、発言するのでなかったら、地域の会の意義さえも不透明になりかねないのです。

地域の会が不透明になっているうちに次々と運転再開が言われています。地域の会には決定権がないとしても、住民の意見を吸い上げる力は持っているはず。もっと現状を考えた発言があつてよいと思えます。東京の今夏の電力不足を盾に運転再開を急いでいますが、消費地にそんな危機感はありません。原発政策のゆがみを立地点のみに押し付けている国こそ、地域の会の発言をきちんと受け止めて欲しいと心から願っています。(T)

会の記録 <http://www.tiikinokai.jp/>

## 市民ネット日誌

- 2月8日 原発の損傷を考える講演会開催。講師坂上武氏
- 3月29日 みんなで語ろう明日の柏崎(市民とはやとの会)
- 4月23日 選挙期間中の東電の6号機運転再開要請に抗議、市民ネットの要請書を渡す
- 25日 国の6号機運転再開要請の来柏に抗議、北岡が現職市議11名の連名で要請書を渡し、口頭で抗議。
- 27日 統一地方選挙 無念!
- 6月2日 柏崎刈羽原発の運転再開に関する請願にて「十分な説明」、「市民の同意」などを市民ネットとして9名の議員の紹介で要請
- 6日 平沼経済産業大臣に「運転再開を許可しない」「国の原子力推進政策を見直し」「原子力の安全規制部門の独立」の3点を市民ネットと地元3団体にて要請
- 7日 東京「原発やめよう全国集会2003」に市民ネット賛同団体に。北岡参加
- 8日 東京「首都圏大停電は本当?東電原発停止と首都圏の電力問題」のシンポジウム。北岡、パネリストとして参加
- 23日 市議会で2日ネット提出の意見書を否決 11対18
- 7月1日 市民ネット、地元三団体と緊急声明を発表、記者会見。配管の検査を全箇所しない事が、法律・規則違反であると批判した。



# 市民ネット通信

## 第8号

プルサーマルを考える  
柏崎刈羽市民ネットワーク  
<http://www.kisnet.or.jp/net>  
〒945-1102 柏崎市向陽町 1279-215  
電話 0257-32-8818  
発行 2003年7月15日

## 市民ネット5周年を迎えて 市民の声の届く市政をめざして

あきれ、驚いた。東電のトラブル隠し以後、全号機が止まり、点検修理継続中、市民が安全を願う中で、地元へ運転再開の要請がありました。市長や一部経済界の要望で6、7号機を再開、更に4号機へと突っ走って行くようです。信頼回復といいながら、安全との一方的説明で、市民の声や疑問には形式的な答えしか返ってきません。市民ネットは、説明会に参加し、今頃になっての謝罪よりも、徹底した点検を求め、技術の不備をつき、安全が確認できるまでは、再開を許さない活動をしていきます。3号機はプルサーマル導入予定でしたが、東電の隠蔽発覚で中止されました。もし、ヒビがあるまま運転されていたと思うと背筋が凍る思いです。電力不足をあおり、市民には形だけの説明で、運転再開するなど、絶対に許せません。

こうした異常事態でも、自然エネルギーへの転換をしようとする国に対して、多くの市民と共に超党派で協力して、力強い運動を展開したいと思います。

市民ネットはあつという間に5周年を迎えましたが、様々なことがあり、地方政治の民主化はなかなか大変だと、痛感しています。新しい柏崎を創るため、とにかく市民の声の届く市政をめざします。

市議選では、どこまでも政策を訴え続けたものの、ネット議員を惜敗させ残念でなりません。遅ればせながら、ご支持くださった方々に感謝とお詫びを致します。しかし、ネットはこれを試練と受け止め、これからの活動に生かす覚悟です。よろしくお願いたします。(K)



## 市議員選挙を終えて 北岡はやと

去る4月27日、市議会議員選挙がありました。私は、2期目に挑戦したのですが落選しました。30名定員に32名立候補中31位832票でした。831名の私に投票して下さった皆さまには大変感謝しております。当選できなかったことについては、私の力不足ということでご容赦願えれば幸いです。

もちろん、私の原発やプルサーマルに関する立場は変わるものではありません。これからも自分なりの活動を続けていく所存ですので、宜しくお願い申し上げます。(北岡)



## 市議選を共に戦って思う

市議会議員選挙の最中、候補者にとっても過密スケジュールとなる終盤。6号機の運転再開のため、東電に続いて保安院院長が来柏した。議会無視の暴挙に対して、北岡はやとは街宣車から携帯電話でプルサーマル反対現職議員11名の同意をとりまとめ、翌朝保安院の市役所到着までに抗議文提出にこぎつけた。市議としての4年間の実績もあろうが、選挙運動の最中、まさに己を捨てても市民の安全のために働くという姿勢に、共に街宣車に乗ってハラハラしながらも、感激し嬉しかった。それだけが原因ではなからうが、現実は一筋きりだった。市民の安全で安心な暮らしのために、貴重な市議を失ったと思うのは私だけだろうか。(M)

市民ネットのメールマガジン 最新の情報を届けます  
不定期に最新の情報をお送りしています。申し込みはメルマガ希望と書いてメールで下記まで  
[hayato@kisnet.or.jp](mailto:hayato@kisnet.or.jp) ホームページは <http://www.kisnet.or.jp/net>

## 試練！選挙に敗れて

修行せよ、まだ若い！

と閻魔大王様

4年前、初の市民運動で生まれた北岡議員は、毎回議会で質問にたち、私はその資質、情報収集力、行動力に期待し、温かく誠実な人柄に惹かれながら、ネットメンバーと目的に向け活動してきました。市民運動からの議会進出は、柏崎の歴史的出来事と報じられ、2期目は政治活動と組織の力量が試されるとの論評に4年間、自問自答し、選挙通に力を借りたいと思った事もありましたが、手不足のまま、いつしか選挙運動に取り組んでいました。同級生もおらず、知人も少ない、地域後援会なしの議員が、どれだけ、市民に溶け込めるか政治活動に理解と支持を得られるか、本人もネットにとっても大変なことでした。

議会活動の紹介、ミニ集会や公共の場での話しかけや意見交換・・・様々の政治活動と選挙を連動させる難しさもわかりました。反省点はありますが市民運動を休んで、選挙にだけ取り組む事は、出来ませんでした。

- ◎ 原子力委、木元懇談会を実質中止にし、超党派のプルサーマル反対大集会を開催。
- ◎ 原発の損傷を考える講演会の開催
- ◎ 選挙期間中の東電の6号機の再開要請に各議員と連絡をとり、東電に抗議
- ◎ 同じく国の要請に、多くの議員の承諾を得て11議員、2団体で抗議

北岡の取り組みはいつも生真面目、真剣でした。

北岡議員通信1-76号の日記は、公私の議員生活の透明性と誠実さを物語っています。

市民アンケート調査は、政務調査費に私費を加え、北岡氏が市民の意識を知り、市政に反映したいと取り組んだもので、ネットは結果を今も大切に運動に生かしています。

投票日前夜、20名ほどのメンバーで、選挙運動について、甘口、辛口で語りあかし、北岡氏への期待が寄せられました。しかし翌日、事務所の隣の閻魔大王様に「まだ若い修行せよ」と告げられ、2期目こそその残念さをこらえ、試練と受け止めました。

2ヵ月たった北岡氏はネットの事務局長として、全国集会への参加、原発の修理点検情報や疑問の分析、自然環境保護、自然エネルギーへの転換など精力的に活動しています。余裕はあると思いますが、活動資金を含め、ありようが問われています。終わりに選挙に関わった一人として、御支持くださった方々に感謝とお詫びをいたします。ありがとうございました。

柏崎は30代-40代の議員が20人となり力強い息吹が感じられ、政治課題解決へ動くものと期待しています。東電、国は、電力不足をあおり、度重なる説明会、再開を要請していますが、危険なしと安全が確認できるまで、信頼する事は出来ません。市民ネットでは超党派で多くの市民と共に、再開反対の運動を展開致します。（桑山）



### — 運転再開の申し入れに、市民ネット、北岡らが抗議 —

選挙期間中の4月23・25日と、東電・国は相次いで柏崎市を訪れ、6号機の運転再開を要請に来ました。選挙期間中のどさくさを狙った、議会（市民）無視の不遜な態度だと思います。市民ネットは東電副社長と原子力安全保安院長に直接抗議しました。北岡は市民ネット市議として、東電や国に対して抗議活動をし、国に対しては現職市議11名の連名で抗議しました。選挙後の5月7日、過半数の18名の市議により、6号機の運転再開に関する市長への要請活動が行われました。「議会と市民に説明し同意を得ること、知事・市長・村長で決めないこと」を市長らに求めるもので、18名には後で決まった正副議長が含まれています。

市民ネットは、こうした議会の「当然」の動きを応援するべく、市議9名の紹介を得て請願を出しました。「市民に公開討論会形式で説明がなされ、市民投票のような形で同意が確認されるよう」請願しました。



**ビール券贈呈で露呈する東京電力の姿勢** 東京電力が“原発に理解のある”市議や市長にビール券を贈っていたことが判明しました。批判派には、贈らないのですから、今後も東電のために宜しくという事なのでしょう。素人感覚では、許されない事だと思いますが、東京電力は社会通念上問題ないものだと主張しています。隠蔽問題での反省が、全く表面的なものであることが、こんなことから見えてきます。

## ひび割れ、隠ぺい事件の本質は何か？

内部告発に端を発した東電事件ですが、まだまだ真相は解明されていません。今回のことは東電の不正という形で矮小化されているきらいがありますが、正に放射能災害に直結し得る重大事件だったのです。放射能災害を防ぐには「止める・冷やす・閉じ込める」ことが3重点です。しかし、ひび割れシュラウドが地震などで破壊されれば、制御棒が入らなくなる恐れがあり、その場合原子炉を「止められない」訳です。再循環系配管が破断でもすれば、冷却水が抜けて「冷やせない」ことになります。最後に、今回の格納容器気密性のごまかし事件ですが、気密性に問題があれば放射能を「閉じ込められない」のです。原子炉シュラウドと再循環系配管のひび割れは、東電の原発だけでなく他社の沸騰水型（BWR）原発にも続々と発覚しており、BWR原発全体の構造的欠陥問題です。

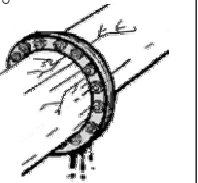
### ひび割れを容認するための維持基準

今回の不正は「維持基準」という、ひび割れを残したままで運転する制度が無かったから起きたのではなく、BWR原発すべて廃炉になりかねない重大な欠陥を、運転を続けるために「隠した」のが実情です。BWR原発を作って以来の大問題だった「シュラウドや配管のひび割れ」が、あの手この手を尽くしたが駄目で、最後に「ひび割れ対策材」の特殊ステンレスに変えてもひび割れて、基準を変えるしか、もはや手の打ちようが無かったのです。

### ひび割れ発覚を恐れ、必要な調査をしない東電

5月7日に運転が強行された、6号機は「ABWR・改良型沸騰水型原発」ですが、（危険な）再循環系配管がありません。これこそが「再循環系配管のある」BWR原発が欠陥炉である何よりの証拠です。

そして、ABWRの6・7号機にも、今回ひび割れ続出の特殊ステンレスが随所に使用されていますが点検しません。「調べれば何か問題が出る」現状で、どうしてもABWRの問題を発見されたくないからだと思われます。ABWR炉に問題が発覚すれば、6月13日強行された日本初の原発輸出や、新規立地に差し障りが出て、日本で原発を作れなくなりかねないからです。

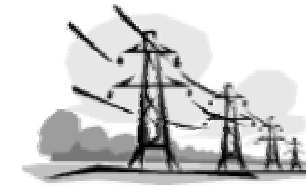


### 電力不足キャンペーンにだまされてはいけない！

こうした裏事情があり電力不足キャンペーンが喧伝される中、更に多くの欠陥原発を動かそうと国や東電の柏崎刈羽詣でが続いています。ですが、市民エネルギー研究所などの分析では、全号機停止でも問題なのは「6～8日間の25～29時間」だけです。6・7号機が動いた現状では対策を取れば停電は考えられません。電力の供給力確保や需要抑制のために、国や電力に打つ手はまだまだ幾らでもあって、「原発を動かしたい（原発無しで電気が足りると困る）」がために、国民の不安を煽っているように思えます。

### 原子力発電所の技術的限界が根本にあります

今回の事件は電力の隠ぺい体質と国の安全規制能力の欠陥が招きましたが、根本的には「原発の過酷な状況に耐える材料が無い」「的確で十分な検査・評価方法が無い」という原発技術の限界が露呈した事件でもありました。この致命的な問題は、解決された訳でなく、まだまだ「おかしな」状況や実情があるのです。柏崎刈羽1号機では、ひび割れが多過ぎます。以前17年間の点検では「問題なし」が、事件後の点検では急に約6割もの個所に問題が見つかりました。国は「ひび割れの深さを正確に測定出来ないのが課題」と言いますが、実は「ひび割れの有無もはっきり把握できない」お粗末な状況と考えられるのです。県や市は今一度安全優先に国や東電と距離を置く姿勢に立ち返り、安易に運転再開を認めないことが求められていると思います。



■残念、市民ネット提出の請願（意見書）、否決される 市民ネットが市議会に6月2日出した請願を受けて矢部市議より提案された「運転再開を急がないことを求める意見書」が、否決されました。意見書は運転再開を急ぐ前に、失われた原子力行政への信頼回復を図ることが重要とし、①十分な議論の場を提供し、地域住民の同意を得ること。②原子力の安全規制のため、独立した中立的機関を設置すること。③バックエンド対策を含め、国の原子力政策を見直すことを求めています。市会議員選挙前には多くの議員が主張していた内容でもあり、当然可決されるものと思いましたが、6月23日に審議され、反対多数で否決されてしまいました。議長を除く29名中11名の賛成でした。賛成した議員は、市民ネットの請願の紹介議員である矢部忠夫・笠原浩栄・若井洋一・高橋新一・持田繁義・宮崎栄子・五位野和夫・中村明臣・飯塚寿之・池田千賀子議員のほか、佐藤敏彦議員でした。反対した議員は18名でした（偶然？にもビール券をもらった議員と同数）